

飛鳥資料館 春期特別展「藤原京を掘る—藤原京一等地の調査—」

今回の展覧会では、奈良文化財研究所がおこなってきた藤原京の発掘調査のうち、左京六条三坊の調査研究成果を紹介します。

この場所は、藤原宮の東に隣接する京内の一等地であり、大和三山の一つで、古代より多くの和歌にも詠まれた香具山の西北麓に位置しています。現在は、奈文研都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)の庁舎が建っています。

1985年から1987年にかけておこなわれた調査では、古墳時代から中世までの遺構を数多く確認しました。なかでも特筆すべきは、コの字形に配置されたとみられる藤原京期の建物群で、四町を占める大規模な施設があったことが判明しました。この大規模施設は、みやこの民政を司った「京職」や「左京職」であったと考えられます。

また、調査では、「香山」と墨書きされたものを含む奈良時代の土器が多量に出土しており、平城京遷都後にも活発な土地利用がなされていたことがわかりました。

本展を通じ、藤原京の一等地における官衙の様相や土地利用のあり方などを知っていただければ幸いです。

(飛鳥資料館 若杉 智宏)



東西大溝から出土した奈良時代の土器

会 期：2017年4月28日(金)～7月2日(日) 月曜休館(祝日の場合は翌平日)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎ 0744-54-3561(飛鳥資料館)

平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展—草創期の奈文研を支えた写真家—」

かつて奈良文化財研究所に“美術工芸研究室”があったのをご存知でしょうか。現在の奈文研は、平城宮跡や飛鳥・藤原宮跡の発掘調査をはじめ、遺跡の整備活用、文化的景観の調査研究等に取り組んでいます。しかし1952年に奈文研が設立された目的は、文化財の宝庫である奈良の地で、古建築や古美術品を総合的に研究し、その研究成果を文化財の保護行政に役立てるためだったのです。1980年に奈良国立博物館仏教美術資料研究センターに移管されるまで、美術工芸研究室はその一翼を担いました。

その調査に同行し、写真撮影をおこなったのが永野太造氏です。奈文研の写真台帳に最初に登録された写真は永野氏によるものであり、奈文研には15年間にわたって永野氏が撮影した文化財写真が数多く残されています。そこで今回、写真パネルやガラス乾板、撮影機材等、永野氏に関わる資料を所蔵されている帝塚山大学と展覧会を共催します。永野氏の写真には、草創期の奈文研の活動の一端や、1950年代を中心とする時期の文化財の姿が写しとめられています。展覧会では、あまり知られていない草創期の奈文研とそれを支えた写真家をご紹介いたします。

(企画調整部 三輪 仁美)



永野太造氏

会 期：2017年4月29日(土・祝)～5月31日(水) 月曜休館

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問合せ：☎ 0742-30-6753(連携推進課)

■ お知らせ

飛鳥資料館冬期企画展「飛鳥の考古学2016飛鳥むかしむかし早川和子原画展」

2017年1月24日(火)～3月20日(月) 4,571名

■ 記録

文化財担当者研修(専門研修/特別研修)

○中近世城郭調査整備課程

2017年1月16日～1月20日

11名

○保存科学Ⅲ(石造文化財)課程

2017年2月13日～17日

11名

○デジタル写真課程

2017年3月7日～3月10日

13名

○報告書公開活用課程

2017年3月13日～3月15日

6名

現地説明会等

○藤原第190次発掘調査 現地説明会

藤原宮大極殿院

2017年1月28日(土)

497名

その他

○訂正

奈文研ニュースNo.63 P8 平城宮跡資料館

展示紹介「第一次大極殿院の模型」

本文7行目 単層 → 重層

ク 入母屋造り → 寄棟造り

■ 最近の本

○第19回 古代官衙・集落研究会報告書

『官衙・集落と土器2』

(株)クバプロ

2016年12月

○海野 聰『古代建築を復元する』

吉川弘文館

2017年3月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2017年3月